

日本呼吸器学会 学術部会活動計画書

報告日	2015年11月	報告者	青島 正大		
部会名	臨床諸問題学術部会				
部会長名	青島 正大	副部会長			
部会内 役職者名	近藤 康博 清川 浩 岸本 伸人 南 正人 品川 尚文	阿部 眞弓 高橋 雅士 田坂 定智 青島 正大 田中 純太	石垣 昌伸 中村 憲二 長 澄人 富井 啓介 戸島 洋一	宇佐美 郁治 二宮 清 蝶名林 直彦 伊達 洋至 西 耕一	喜舎場 朝雄 松田 良信 岸本 卓巳 藤田 次郎

【学術部会のミッション】

臨床諸問題学術部会は、環境・職業関連問題、臨床疫学、喫煙、肺移植および広範な萌芽的臨床諸問題を検討する部会です。昨年は禁煙に関する小冊子「肺の寿命の延ばしかた ～肺は今が一番元気！～」の発行に当部会の役員が中心的役割を担いました。また喫緊の課題として若手医師の呼吸器診療のスキルアップも重要なテーマと位置づけています。

当部会は他の部会と異なり、大学以外で臨床活動を展開している役員が多くを占め、臨床現場での豊富な経験を活かし、幅広い活動を目指したいと思っておりますが、中でも総合的な呼吸器科学の確立、および発展を中心に取り組みたいと考えています。

呼吸器科医がカバーする分野は、呼吸器感染症、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患や肺癌、職業性肺疾患と広範であり、また総合診療における common diseases が多数を占めています。

人口の高齢化を背景として呼吸器疾患は今後も増加することは明らかであり、すでに国民の死因の第一位を占めるがんの部位別でも男性の1位、女性の2位に肺癌が位置し、肺炎は国民の死因の第3位、COPDは第9位を占めるに至っています。このように呼吸器科医の果たす役割がますます大きくなるのが想像される一方で、その負担もますます増大することも予想され、そのことが若手医師には呼吸器科はつらい、大変といった呼吸器離れを招いているという問題があります。一方で、近年、総合診療医志向の若い医師が増えているという事実があります。また呼吸器専門医が不在の地域では総合診療医が呼吸器診療を担っているという事実もあり、実際の総合診療では、呼吸器診療の素養が求められる点を強調し、会員・非会員を問わず若手医師へ向けた呼吸器診療のスキルアップを図ることにより呼吸器学会への認知を高めてもらうということが必要と考えます。

具体的には総合診療に役立たせるという視点で呼吸器診療を捉えた出版物の企画や出版の支援、あるいは問診、身体所見の取り方、画像の読み方などのセミナーを学術講演会や各支部会で企画し、それを通じて若手医師に呼吸器疾患の重要性、および面白さを理解してもらう試みを考えています。

【活動予定】

■ 学術講演会および支部会における若手医師向けの呼吸器診療スキルアップの企画
■ 環境・職業関連問題
■ 総合診療の側面としての呼吸器疾患（書籍の企画や出版の支援など）
■ 血液疾患に合併するbronchiolitis obliteransに対する肺移植の治療成績
■ EBM に関すること、および臨床研究・臨床治験に関すること

【内容】

具体的な活動内容	活動成果の報告 予定日	活動内容に伴う 予算
学術講演会における症例検討会の形式を一部変更し、「問診、身体所見の取り方から画像の読み方、さらには病理所見の解釈まで」を網羅する診断・治療へのアプローチの習得を目指す新しい企画		学術講演会の予算に含まれる
各支部を巻き込んだ若手医師向けの「問診、聴診と画像診断といった実際の診療セミナー」や「原著論文・症例報告の書き方、統計学的解釈、臨床治験の組み方など」の企画		会場や機材確保のため学会からの援助や企業の協賛が必要
職業性肺疾患に関する啓蒙活動（Helsinki criteria 2014などの解説冊子など）		著作権や翻訳権などの法的な側面もあり未定

【学術部会の活動】

他の部会と異なり、当部会がカバーする領域では移植や職業性肺疾患などを除きアカデミックな論文の作成は困難という印象を持っています。しかし、アカデミックな論文作成のための教育、例えば「原著論文・症例報告の書き方、統計学的解釈、臨床治験の組み方など」従来学術講演会で行われていたものを、各地方会に、部会から企画を要請するといった取り組みなどのよりアカデミックな方向性とともに、当部会では総合診療・実地診療に強い役員が多いという性格に鑑みて、総合診療的側面からの教育を通じ実臨床との両面から若手医師へのアピールを継続し、呼吸器学会への貢献を目指していきたいと考えています。